

倫理審査委員会議事要旨

1. 日時 令和2年1月16日(木) 15:08 ~ 15:40
2. 場所 ミーティングルーム
3. 出席者 副院長、長嶋医師、薬剤科長、事務部長、矢崎外部委員、山岡外部委員
庶務班長(書記)

※委員の3分の2以上の出席がありましたので委員会を開催

4. 要旨

課題名① 認知症における臨床診断と病理診断の妥当性評価と診断精度の向上
(申請者 精神科医師 加藤 英生(新規))

申請者

- 倫理審査申請書に沿って説明。

委員

- 是木先生は研究者でなく、管理者ということですか。

申請者

- そうです。

委員

- 30例が予定となっているが、解剖自体は終わっていると思うので、だいたいの目安は出来ているのか。

申請者

- これから選定を追加するかもしれない。

委員

- 全解剖数はどれくらいあるかの把握はされているのか。

申請者

- 2010年からなのでまだわかりません。

【審査結果】

課題名① 認知症における臨床診断と病理診断の妥当性評価と診断精度の向上

上記に申請について、オプトアウトをホームページでやるということで特に問題がなければ承認ということによろしいか。
→承認とする。

課題名② クライシスプランを家族と共に作成する取り組み
(申請者 看護師 (2-1病棟) 富田 綾冬 (新規))

申請者

- 倫理審査申請書に沿って説明。

委員

- クライシスプラン自体はもうやっているのか。

申請者

- もう病棟ではやっています。

委員

- 研究するということでは今回がはじめてになるのか。

申請者

- 家族に対してははじめてになります。

委員

- モニタリング項目というのは病棟スタッフと家族と話し合っ
て決めるのか。

申請者

- モニタリング項目については、このクライシスプランに患者さん
自身で評価していただきます。

委員

- アンケートの回収は1ヵ月後の外来日に記載して持参と書かれて
いるが、患者さんが見ちゃったりして関係が悪くなることはないか。

申請者

- 封筒と一緒にアンケートを配布するので、回収時は封筒に閉じられ
た状態で回収する。

【審査結果】

課題名② クライシスプランを家族と共に作成する取り組み

上記の申請について、特に問題がなければ承認というこ
とでよろしいか。
→承認とする。

課題名③ 統合失調症患者に対するリハビリに焦点を当てた心理教育の
効果の検証
(申請者 看護師(2-2棟) 薄葉 勇男 藤崎 博文(新規))

申請者

○ 倫理審査申請書に沿って説明。

委員

○ 2-2病棟だけじゃなく、当院に入院しているすべての統合失調症患者さんも対象なのか。

申請者

○ 2-2病棟に入院している患者さんを対象にしている。

委員

○ 記載に2-2病棟に入院している患者さんを対象と記載した方がよい。

申請者

○ わかりました。

委員

○ 課題名が検証となっているが、検証とは仮説を実証する試験をいうので、今回はきちっとした仮説がないので、検討にはどうか。

申請者

○ わかりました。

委員

○ 教育をした直後にリハビリをしても見えない段階での検証になってしまうのではないか。

申請者

○ リハビリという概念は、退院後の目標を持つことがリハビリだと思っているので、入院中から自分が退院後どういう生活をしたいかが大事だと考える。

委員

○ どれ位入院していて1週間前位にアンケートをとるのか。

申請者

○ 急性期のあと90日を超えた段階でのアンケートを考えている。

【審査結果】

課題名③ 統合失調症患者に対するリハビリに焦点を当てた心理教育の
効果の検証

上記の申請について、まず、タイトル名等は見直してもらい、修正がされたことを確認後、承認ということによるしいか。

→条件付承認とする(委員長が修正箇所を確認し承認とする)。

以上